

生活応援だより～良い土作り 草花がよく育つかどうかは土質にかかっています

初心者はまず、そのまま 植えられる市販の培養土を使う

コンテナガーデンで草花をしっかりと育てるには、良い土を使う事が大切です。コンテナという限られたスペースで草花を育てなくてははいけません。土の良し悪しが、生育に大きく影響します。初心者の方はまず、市販の培養土を使って草花を育ててみましょう。培養土とは、土に有機物や肥料をあらかじめ混ぜてあるもので、そのまま植えることのできるものです。「バラ用」や「ハンギング用」など、草花の種類や植えるコンテナによって配合が違ってきます。パッケージの裏には、配合してあるものやその量、また肥料が含まれているかどうかなどが記載されていますので、よく確認しましょう。



どんな培養土を選んだらいいかわからない場合は担当者の相談してみてください。

ガーデニングに慣れてきたら 自分で土をブレンドしてみる

ガーデニングを続けていると、市販の培養土では十分でない場合が出てきます。そんな時は条件に合った土を自分でブレンドしてみましょう。日照時間、気温、湿度、風通しなどによって、材料の配合を変えます。



あかだまつち
赤玉土

園芸用の土として基本となるもの。水もち、肥料もちが良い。大粒、中粒、小粒がある。



ふようど
腐葉土

落ち葉などを腐らせて発酵させたもの。土に有機物を加え、水はけ、通気性をよくする役目がある。



ピートモス

水ゴケが推積して腐ったもの。腐葉土と同じ役目をもつ。



パーライト

真珠岩を細かく砕いて高温で焼いたもの。配合すると水はけ、通気性がよくなる。



パーミキュライト

ひる石を焼いたもの。水はけ、通気性をよくし、肥料もちがよくなる。

もっとも基本的な土作りの配合は 赤玉土 6 : 腐葉土 4 を加えたもの。大体の目安となります。もしくは 赤玉土 6 : 腐葉土 2 : ピートモス 2 を配合したものでほとんどの草花を育てることができます。赤玉土は中粒か小粒がいいと思います。

水はけ具合で土の性質を 見極めて改良する

培養土は水はけ具合を見て、その性質を見極めます。その上で、少し手を加えて最適な土を作りましょう。土に水を入れ、水がじわじわ引くようなら O K。

水がたまる場合は、水はけ、通気性が悪い → 腐葉土、パーライトを足す

水がなかなか染み込まず土の表面にたまるようなら、水はけ、通気性の悪い土ということになります。腐葉土とパーライトの割合を増やします。

土が浮く場合は、通気性、肥料もちが悪い

→ 赤玉土を足す

持ってみて土が軽く、水を与えると土が浮いて穴があくようなら、通気性と肥料もちが悪い証拠。赤玉土を足します。

土が下がる場合は、水はけと通気性が悪くなってくる

→ 赤玉土とパーライトの割合を増やす

水を与えると、水は引いていくがその後に土の高さが下がっているのは、土の間にすき間ができていますので、そのうちに水はけと通気性が悪くなってきます。赤玉土とパーライトの割合を増やします。

一度使った土は休ませてから 再使用する

土を再利用するには、一度休ませる必要があります。大きなゴミはふるいなどで取り除き、有機肥料を混ぜて土全体を湿らせてから 1～2 か月休ませます。

硬くなった土には 腐葉土を足して応急処置

軽い土は、水やりを続けているうちに土が締まって、根が張りにくくなり、草花の生長が妨げられます。そんなときは、とりあえず腐葉土を足しておきましょう。

